



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	高校地理教育での「東京大空襲」の授業実践（実践報告）(fulltext)
Author(s)	川澄,正幸
Citation	学芸地理(71): 91-100
Issue Date	2016-02-18
URL	http://hdl.handle.net/2309/145225
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

高校地理教育での「東京大空襲」の授業実践

川澄 正幸*

キーワード：東京大空襲，地理教育，授業実践

I はじめに

1982年の大学入学の直後、私は学問、そして地理学への“憧れ”のようなものを抱き、ドキドキして“小金井サンシャイン”8階フロアに足を向けた。そしてそこに貼りだされた各ゼミの開催通知を見つけ、「とりあえずここを覗いてみようかな」と考えた。当時私はアルバイトの関係で月曜の夜しか時間がとれず、その条件に適うのが歴史地理ゼミだった。

私は同級生の石塚俊文君を誘い、ゼミに参加した。設立されたばかりの歴史地理ゼミは、古田先生に導かれ、菊地利夫先生の『歴史地理学方法論』（大明堂発行、1977年初版）をはじめとした歴史地理学文献の輪読・レポートが中心に行われた（ちなみに私の所有する『歴史地理学方法論』の目次のところには「第1章 古田 4/18, 第2章 田村 4/18, 第3章 辻 5/9, 第4章 川澄 5/23」と各章のレポートの氏名と発表のゼミの期日がメモされていて、それ以下にも石塚、古田、田村、辻、中藤、川澄、石塚、野島、中藤…と各章のレポートが記されている。ちょっと前まで高校生の私にとって、

専門書の字句を追うことすら難しい中で、古田先生からは時には叱咤激励をいただき、四苦八苦して諸論文に挑み続けた記憶がある。さらにゼミの後は必ず武蔵小金井の居酒屋「みつや」へ。この“延長ゼミ”には他のゼミの諸先輩方も合流し、“知的興奮”に満ち溢れた“論議”などが古田先生を中心に毎週深夜まで繰り広げられたのは言うまでもない。

古田先生にお世話になった学芸大学時代の様々な思い出が、陳腐な表現であるがまさに走馬燈のように浮かぶ。私は学部・大学院の6年間、毎週の歴史地理ゼミの時間はもちろん、学部3年の岩手県での臨地研究では一から古田先生にお世話になり、歴史地理分野の論文を初めて書いた。感謝にたえない。とともに、この論文が私の歴史地理研究の最後の論文になってしまったことが大変申し訳ない。このような私が、古田先生ご退職記念号に拙文を掲載させていただくことは本当に心苦しい限りである。

さてそのような不肖の“弟子”である私であるが、古田先生が案内された巡検には数多く参加させていただいた。関東圏でも「武蔵野の新田」「渋谷・宮益坂」「江戸城」「玉川上水」「佃

* 東京都立南葛飾高等学校

島」「千葉・房総」…と。昨今 NHK で「ブラタモリ」という番組が放送され、タレントのタモリ氏が東京を中心とした各地を地理巡検しながら歩いている様が放映されている。そのような番組を見ていると、30年ほど前の私たち地理学教室の教官・学生がそこにいるようにも感じられてしまう。蛇足ついでに、その「ブラタモリ」の「東京・荒川編」(2011年11月24日放送)に葛飾区郷土と天文の博物館の橋本直子先生が出演されていて、「橋本先生とも古田先生の巡検でご一緒したなあ」とテレビを前に私は回想したのであるが、これは全くの蛇足。

ところで、数々の巡検の中で、たしか「玉川上水」巡検の途中であった。いつもの巡検のように、われわれは資料を手に、上水沿いの道を歩き、先生の解説を拝聴する中で、私がたまたま「歴史地理の巡検に参加すると見えないモノが見えてくるような気がする」というような感想を吐いた。絵図や古文書をもとに、2, 300年前の事物の位置や地割りを推定し、「おそらくこのあたりに…」という先生の説明を聞きつつ、前述の感想を私が思わず吐いたのである。実際私には「見えた」ような気がしたのである。そしてこの私の言葉をとらえた古田先生が、巡検後の「反省会」の席で、「現在の時空間には実在しない歴史的な過去の事物を、古文書や絵図・古地図を手がかりに、そして案内者が説明や話術を駆使して『見えないモノを見せる・見る』のが歴史地理巡検の醍醐味なのだ」ということを嬉しそうに語られたのだった。このように私は、古田先生から様々な機会を通して歴史地理学、そして学問のおもしろさに触れさせていただいたことを記憶している。

II 「東京大空襲」の教材化

私は1988年から、東京の4校の都立高校で教

壇に立ってきた。地理だけでなく地歴・公民のあらゆる科目を担当してきた。日々の“忙しさ”にかまけての、“やりっぱなし”の授業実践を重ねてきたにすぎない。

そんな私だが、今から十数年前に戦争に関する生徒アンケートを取る機会があった。このアンケートで「東京大空襲」の年月日を聞くと、正しく答えられた生徒は3%にすぎなかった。このアンケートの結果を広島の教員に話す機会があった。この方に「東京の人って、知らないのですよね。広島で原爆の日である8月6日を知らないなんて考えられない」と批判されたのだった。

たしかに日本史や世界史の教科書には「広島」「長崎」の「8月6日」「8月9日」は記述されており、近現代史の学習では私も必ず教えていた。しかし足もとの「東京大空襲」については私もほとんど授業で扱ってはいなかった。近年東京都は3月10日を「東京都平和の日」と指定し、追悼の式典を開いている。2015年の3月10日には安倍首相が初めて東京都慰霊堂での式典に訪れて、話題になった。また、この日を前後して新聞各紙は「東京大空襲」の体験者の話などを掲載する。「東京大空襲」をテーマとしたテレビドラマもいくつか放送された。

しかし「東京大空襲」の日である「3月10日」の認知度はまだまだ低い。広島の方からの“批判”を契機に、私は、「東京大空襲」を授業の中で工夫して取り上げてはきている(「戦後70年」をむかえる、NHKが「広島に原爆が投下された年月日」を全国で70%の人が「わからない」というアンケート調査結果を発表した。「原爆投下をやむをえなかった」と答えた人が40%にのぼったことも発表された。教壇に立つ一人として、この数字は看過できない。しかし本稿ではこのことは深く立ち入ることはできない)。

1. 「東京大空襲」の概要

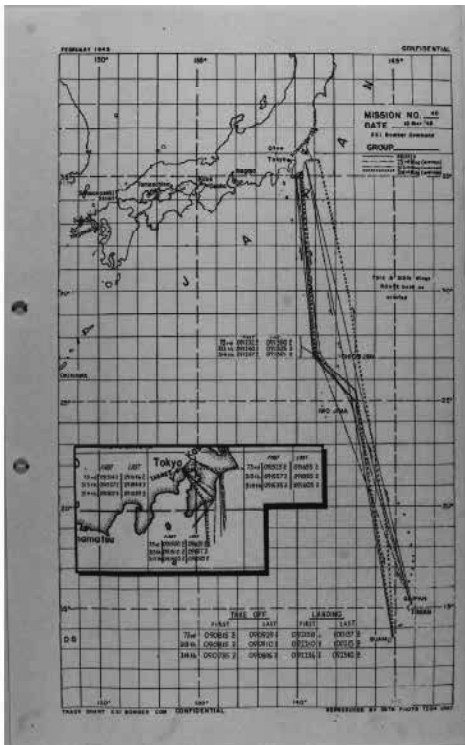
日本の各都市が太平洋戦争の最中に米軍の空襲にみまわれた。東京は1944年11月14日以降、100回以上の空襲を受け、市街地の約6割が焼失し、687万人だった区部人口は疎開などを含め253万人に減少した。特に1945年3月10日、4月13日、15日、5月25日の空襲では大きな被害を出した。このうち3月10日の空襲を「東京大空襲」と呼称することが一般化している。

1945(昭和20)年3月10日未明、米軍爆撃機 B-29 による下町地域を目標とした無差別焼夷弾爆撃によって、人口密集地域は火炎地獄と化し、推定10万人の死者、約100万人以上の罹災者を出した。

3月9日夕、B-29、325機(米側発表)は高性能の焼夷弾を満載し、マリアナ諸島のサイパン・

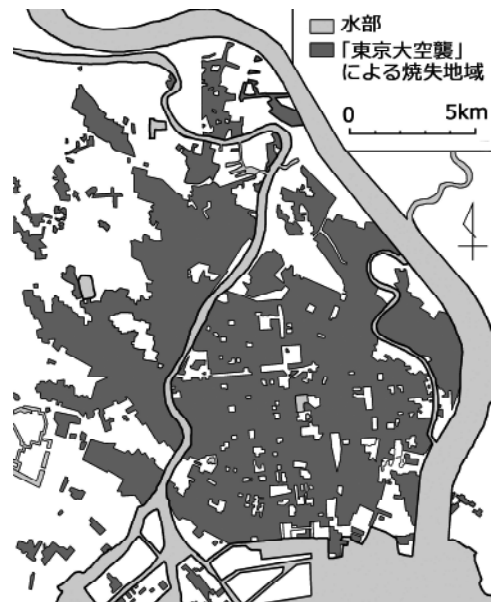
グアム・テニアン各基地を飛び立った(第1図)。この爆撃計画の立案ならびに指揮は米陸軍航空軍第21爆撃機集団司令官カーチス・E・ルメイ将軍があたった。なお同将軍は第二次世界大戦後も軍役につき、ベトナム戦争の北爆も指揮した。ルメイには「日本の航空自衛隊創設時の戦術指導に対する功績」により、1964年には佐藤栄作内閣より勲一等旭日大綬章が贈与されている。

3月10日0時8分、東京湾上から侵入した B-29 が深川地区(現在の江東区)への第1弾を投下。0時10分には隣接の城東区(江東区)、0時12分には本所区(墨田区)が被弾した。焼夷弾はさらに本所区を南北に縦断して投下され、火災は浅草区(台東区)、牛込区(新宿区)、下谷区(台東区)、日本橋区(中央区)、本郷区(文京区)、麹町区(千代田区)、芝区(港区)と広がった。火災がほぼ鎮火したのが10日午前8時過ぎであった(第2図)。



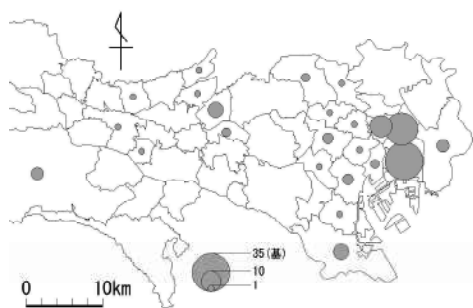
第1図「東京大空襲」爆撃隊航路

XXI Bomber Command (20th Air Force) Tactical Mission Report No. 40(アメリカ国立公文書館所蔵)より引用



第2図「東京大空襲」被災地図

AMS 被災地図(U. S. Army Map Service, 1945:1946)および島方洗一(2015)より川澄作図
道路・橋は省略した



第3図 東京空襲に関する慰霊碑の分布

早乙女勝元監修／東京大空襲・戦災資料センター編(2015)：『決定版 東京空襲写真集－アメリカ軍の無差別爆撃による被害記録－』，勉強出版，pp. 516-513. より川澄作図。

本図は3月10日の「東京大空襲」に関する慰霊碑の数ではなく、東京全体での慰霊碑数である。



第4図 東京大空襲慰霊碑

(東京都墨田区)

2014年3月 川澄撮影

10日早朝より軍隊・警防団・消防隊員らが死体処理作業にあたった。焼死体は炭化し、身元確認は困難を極め、遺品である鉄かぶと・ボタン・がま口の口金などで死者数を推定していったとされている。このため公的な資料でも死傷者数は大きな開きがあるが、現在では「死者約10万人」というのがほぼ定説となっている。空襲による遺体約8万體は身元確認ができないままに、各地域の公園、寺社の墓地・境内に「仮埋葬」された(東京空襲を記録する会, 1982, pp. 82~83)。

この結果多くの家屋・建物が被災し、人が焼

第1表 東京大空襲に関する事業実践

(大単元：身近な地域と地理的課題)

時間	内容
1	・「事前アンケート調査」の実施 ・「東京大空襲」の概要 ・「NEWS ZERO」視聴(2010年3月8日放送, 15分)
2	・ビデオ「東京大空襲」視聴(NHK 特集, 1978年3月9日放送, 50分)
3	・「東京大空襲」体験者(橋本代志子 さん)のお話を読む ・日本と世界の空襲・戦争
4	・ビデオ「東京大空襲60年目の被災 地図」視聴(NHK 特集, 2005年3月6日放送, 50分)
5	・まとめ

川澄試案, 高校地理 A (2単位), 計5時間の授業構成

け死んだ。これを含む東京空襲を忘れないために、都内だけでも第3図・第4図に示す慰霊碑が自治体のみならず、民間の手でも多数設置されている。

2. 「東京大空襲」の授業

これまで私が勤務した都立高校4校は、どの学校もいわゆる“進学校”ではない。したがって大学受験を意識した地理や社会科の授業をしなければならないような“制約”はない。しかし生徒の関心を持続させる(つまり飽きさせない、居眠りさせない)ことに常に腐心して授業を重ねてきた。このような生徒の学力や関心度、そして授業者である私の“力量”から、以下に紹介する「東京大空襲」の授業はおおむねビデオ映像に頼ったものである。限界のあるものであることは承知しつつ、紹介したい。

第1表は、私が実践をしている「東京大空襲」に関する授業の一例である。1時間目に一連の「東京大空襲」の授業の“導入”の意味で見せる「NEWS ZERO」は、日本テレビのニュース番組で、タレントの櫻井 翔氏がキャスターとして登場する。「東京大空襲」で両親と妹を亡くされた空襲体験者・橋本代志子さんへのイン

第2表 都内の主な空襲被災樹木一覧

区	場所	住所	樹種 本数	推定被災日 (1945年)
足立区	源長寺	千住仲町 4-1	ケヤ 1	4/13, 14
荒川区	諏訪神社	西日暮里 3-5	イロハ 1, シダジイ 1	4/13, 14
江戸川区	宝蔵院	東小松川 2-1-16	イロハ 1	3/10
大田区	磐井神社	大森北 2-20-8	イロハ 2, シダジイ 1	月日不詳
	新田神社	矢口 1-21-23	ケヤ 1	月日不詳
北区	王子神社	王子本町 1-1	イロハ 1	4/13
	名主の滝公園	王子岸町 1-15	シダジイ 3, ケヤ 1	4/13
江東区	深川不動産	富岡 1-17-13	ヒメヤブ 1, シダジイ 6, 杉 1	3/10/
	深川公園	富岡 1-17-13	イロハ 1	3/10
	富岡八幡宮	富岡 1-20-3	イロハ 5, クス 2, トコシメ 4	3/10
渋谷区	鳩森八幡神社	千駄ヶ谷 1-1-24	イロハ 2	5/25
	榎木神社	千駄ヶ谷 2-29	エキ 1	5/25
品川区	岡田家多田公稲荷社	中延 1-4-8	シダ 1	月日不詳
新宿区	浅沼組本社	荒木町 5	イロハ 1	4/13, 14
	穴八幡神社	西早稲田 2-1-11	イロハ 1, カゴジユ 1	4/13, 14
	幸國寺	原町 2-20	イロハ 2, シカ 2, アカ 1	5/25, 29
	日本出版クラブ会館	袋町 6	イロハ 1	4/13
	鬼王神社	歌舞伎町 2-17-5	シダジイ 2	4月
	鎧神社	北新宿 3-16-18	イロハ 1	4~5月
	国際学友会	北新宿 3-22-7	ケヤ 1	4~5月
	パイロットハウス	北新宿 3-22-10	ケヤ 2	4~5月
墨田区	吾孺神社	立花 1-1-15	クス 1	3/10
	牛島神社	向島 1-4-5	シダジイ 1	3/10
	江島杉山神社	千歳 1-8-2	イロハ 1	3/10
	榎木稲荷神社	立川 4-12-24	エキ 1	3/10
	飛木稲荷神社	押上 2-39-6	イロハ 10 シダジイ 1, トコ 1	3/10
	第二寺島小学校	東向島 4-30	クス 1	3/10
	三囲神社	向島 2-5-15	イロハ 1, モッコ 1	3/10
台東区	上野公園	東京都美術館内など	イロハなど23	3/10
	国立東京博物館	上野公園 13	杉 2, シダジイ 2, トコシメ 1, カゴ 1, 幼 1	3/10
	浅草寺	浅草 2-3	イロハ 15, アカ 1, ヤギ 1	3/10
	鳥越神社	鳥越 2-4-1	シダジイ 1	3/10
	谷中墓地	上野桜木町 1-4-11	シダジイ 2	3/10
千代田区	神田明神	外神田 2-16-2	イロハ 5	3/10
豊島区	天祖神社	南大塚 3-49-1	イロハ 3	4/13
中野区	宝仙寺	中央 2-33-3	イロハ 2	5/25
文京区	観潮楼跡	千駄木 1-23-4	イロハ 1	1/28
	御林稲荷社	千駄木 5-6	イロハ 1	5/25
	榮松院	向丘 2-35-7	シダジイ 2	5/23
	光源寺	向丘 2-38-22	アラカス 1, シカ 1	5/25
	富士神社	本駒込 5-7	アカ 1, シダジイ 4, イロハ 2, ケヤ 2	2/25
	伝通院	小石川 3-14-16	イロハ 1	5/24, 25
	澤蔵司稲荷	小石川 3-17-16	幼 1	5/24, 25
	光円寺	小石川 4-12-8	イロハ 1	5/25
	善仁寺	小石川 4-13-19	イロハ 1	5/25
	湯島聖堂	湯島 1-4-25	イロハ 9, シダジイ 1, アカ 3, モッコ 1	3/10
港区	都立芝公園内4号地	芝公園 3	イロハ 1, シダジイ 1	5/25
	芝東照宮	芝公園 4-8-10	イロハ 1, 杉 1	5/25
	旧細川邸	高輪 1-16-25	シダジイ 1	5/25
	善福寺	元麻布 1-6-21	イロハ 1, ケヤ 1	5/25
	氷川神社	赤坂 6-10-12	イロハ 2	5/24, 25
目黒区	大鳥神社	下目黒 3-1-2	イロハ 1, シダジイ 1	5/29

唐沢孝一「被爆樹木」より筆者が確認したものに限り作成

タビューを中心に構成されている。当時私は都立芝商業高校でこの橋本さんの体験をもとにした紙芝居の上演を授業でやっていたこともあり、この番組から取材を受けた。私もこのニュースにほんの一瞬写っている。

NHK 特集「東京大空襲」はかなり古い番組ながら、「東京大空襲」の被害の様子が焼け野原になった市街地に横たわる焼死者の写真などで表現されるだけでなく、空襲による焼失地域の拡大が時間をおった「空襲焼失地図」で表示される。空襲下で逃げ惑った市民の体験もリアルに語られる。さらに当時の日本軍・政府の「避難せずに消火せよ」とした住民への指導内容も明らかにされる。「空襲警報」の発令が B-29 から焼夷弾が投下され、すでに火災が拡大した後になってしまった理由を、「就寝中の天皇への配慮がはたらいたから」とする証言も登場する。一方で米軍側の周到な空襲計画と準備も紹介され、この空襲の計画・実行の責任者たるカーチス・E・ルメイの戦後のインタビューで番組は締めくくられている。

私はこの「東京大空襲」の学習の最後に宿題というかたちでレポートの提出を生徒に求めている。東京大空襲・戦災資料センター¹⁾は都立や国立の「空襲資料館」が建設されていない中で、2002年3月に設立された唯一の常設施設である。

3. 空襲と「被災樹木」

元都立高校教諭 唐沢孝一の研究によれば、東京都内には空襲によって被災し、幹などが炭化しつつも現存する樹木が百カ所以上存在している²⁾。「都内空襲被災樹木一覧」(第2表)は唐沢が自身のホームページに公表している一覧を元に、筆者が所在を確認したものを掲載した。

生徒には「宿題」として、「一覧」のリストをもとに、居住地や学校の近くの樹木を訪れさ



第5図 生徒のレポート
実際に提出されたものを川澄撮影

第3表 「東京大空襲」巡検行程例

見学場所 (移動手段)	内容
浅草寺 (徒歩)	二天門集合 境内の「空襲被災樹木」のイチョウなどを見学
言問橋 (徒歩)	東京大空襲犠牲者追悼碑の見学
飛木稲荷神社 (地下鉄・徒歩)	境内の「空襲被災樹木」のイチョウなどを見学
東京大空襲・戦災資料センター	館内見学 見学後解散

川澄の授業実践より作成

せ、写真を撮ったり、スケッチをさせてレポートを作成させている(第5図)。

都内のほとんどの「空襲被災樹木」の所に「案内板」などは存在しない。このため生徒は樹木を探すこと自体で苦勞する(苦勞させる狙いもあるのだが)。ようやく見つけた樹木の幹などに真っ黒な焼け跡を見つけた生徒は一様に驚き、そしてレポートを作成している。



第6図 浅草寺境内のイチョウ(冬)
2014年3月 川澄撮影



第8図 飛木稲荷神社境内のイチョウ
2014年3月 川澄撮影



第7図 浅草寺境内のイチョウ(夏)
2008年8月 川澄撮影



第9図 飛木稲荷神社境内のイチョウ(炭化した幹)
2004年9月 川澄撮影

4. 「東京大空襲」巡検(フィールドワーク)

第3表にしめしたような行程で生徒や教職員対象の巡検(フィールドワーク)をこれまで数回実施してきた。

「東京大空襲」の炎に包まれ、幹が焼き尽くされ、枯れてしまったと思われた浅草寺(台東区)のイチョウ(第6図・第7図)も飛木稲荷神社(墨田区)のイチョウ(第8図・第9図)も、数年

後の春には新芽が吹き、70年後の現在でも堂々たる樹勢を保っている。イチョウは樹木に含まれる水分量が多く、高熱にも耐える上、加熱すると葉の裏側から水蒸気が噴き出してくるともいわれている。古くから「火伏せの木」とも称されてきた。

浅草寺のイチョウも、飛木稲荷神社のイチョウも、ともに炭化した幹を触ると炭が指に付着する。「空襲で焼けた樹木の炭が…」と驚きの声が上がるとともに、一気に70年前の空襲後の東京の光景が眼前に広がるのであった。歴史地理学の巡検に参加した私に『『見えないモノを見せる・見る』のが歴史地理巡検の醍醐味だ』と教えていただいたわが師の言葉に重なる。

5. 生徒の感想を前にして

前述の5時間の学習ののち、「被災樹木」見学レポートを作成・提出した生徒、あるいは私の呼びかけに応じて、「東京大空襲」巡検(フィールドワーク)に参加した生徒が次のような感想を書いている。以下、その感想文を4例、引用・紹介する。

感想1

被災樹木を見て、改めて戦争の恐ろしさと生命力の凄さを実感しました。だいたいの被災樹木は、一見普通の木に見え、なかなか区別がつかないものもありました。でも都内にあるいろいろな被災樹木を見に行くうちに、樹皮が焼けて黒くなったあとがあったり、枝の先が丸まっていたりして、その特長がわかるようになりました(現文ママ)。

感想2

被災樹木も、東京大空襲も、戦争も、それまでの私には漠然とした昔にあった出来事でした。けれど、実際に戦争の被害にあった被災樹木を目の前にして、これらが私に遠い話ではなく、本当にあったことなのだと実感できました。氷川神社の被災樹木の焼け跡を見たとき私は、そこにカメラを向けられません。戦争の怖ろしさを改めて感じたような気がしました。

私のように、日本の戦争はどこか遠いところの話に感じている人はたくさんいると思います。これから年月が進んで、戦争を体験した方からのお話を聞くことが少なくなってしまいます。被災樹木は戦争を知らない人たちに大切なものを伝えてくれると思います。私たち学生が語り継いでいくべきことだと感じました。

感想3

私は被災樹木を調べる事で、自分の住んでいる地域にも実際に東京大空襲が起きていたのだと実感することができました。毎年夏祭りに行く文京区の富士神社の神木が実は被災樹木だったことに、この課題が出されて見学するまでは気づきませんでした。レポートをつくるために神社に行き、神木を見上げると、幹が焦げていました。被災樹木を調べる事で今の自分達が過去の空襲と無関係ではないという事が分かりました。戦争や空襲は特別な場所で起きると思っていました。しかしいろいろやることで、今ここで起きてもおかしくないということを実感し、恐怖を感じました。ですので、私たちがきちんと戦争が起きないように、戦争の恐ろしさを伝えていかなければならないと思いました。

感想4

私たちの世代は戦争を体験したことがなく、戦争がずっと昔の話や遠い国だけのもののように思っている。終戦して70年ほどしか経っていないのに、戦争が風化してしまっている。戦争について知識・興味の少ない人が多すぎるように思う。被災樹木を調べるまで、授業以外で「東京大空襲」のことを知ろうなんて考えていませんでしたが、こういった活動をしたせいか、戦争や空襲について様々なことを感じることができました。

初めて被災樹木を見た時、戦争の被害を知るものが私の身近にあるということに驚き、ここで戦争があって苦しんだ人がたくさんいたのだと思うと恐かったです。

私は今、焼け焦げていたり、傷ついている樹木を見つけると、「東京大空襲」や戦争で負った傷なのかなと考えるようになりました。また、被災樹木を調べるためにまわった

場所に行くと、一緒にいる人に、「この木は空襲で焼けた木なのだ」と教えています。この場所で戦争があったこと、そして今の日本の社会が幸せなんだということを他の人に考えてほしいからです。そして昔の戦争を知り、感じることによって、他の人たちよりも今の平和の幸せを感じられるのかも知れない。

「ビデオ」を視聴し、そして空襲体験者の証言を読み、「被災樹木」や「空襲慰霊碑」を訪れる中で、生徒は「ここで戦争があって苦しんだ人がたくさんいたのだと思うと恐かったです」と素直に感想を記している。生徒たちは70年前の空襲下の空間に誘われ、情感豊かに想像力を働かせるのである。そして空襲を受けた地域がまさに今自分が生活する空間なのだということに改めて気づかされるのである。「戦争や空襲は特別の場所で起きる」のではなく、「今の自分達が過去の空襲と無関係ではない」という感想は興味深い。

戦後70年の今日、戦争体験の継承が大きな社会的課題となっている。そのような現在において、上記のような生徒の感想に出会えることは教師としてホッとする瞬間である。そして同時に「見えないモノを見る」ことを生徒とともに体験する知的興奮に私自身も包まれる瞬間なのである。

Ⅲ おわりに

本稿の最後に、どうしても記しておかなければならないことがある。私の1学年先輩で、歴史地理ゼミ創設当初より古田先生の指導の下、ともによく学び、よく飲み、語り合った中藤淳さんが2012(平成24)年6月に急逝された。東京学芸大学大学院修了後は都立高校での教職の道に就かれた中藤先輩のあまりの突然の訃報はシ

ョックであった。

「歴史地理学」134号(1986年9月)には「江戸町人地における土地所有変動の地域的差異」、148号(1990年3月)には「近世盛岡城下外の新津志田町における遊廓の変遷過程」が掲載されている。前者の論文は中藤さんが1984年度に東京学芸大学に提出した卒業論文をもとに書かれたものであり、この研究の途中経過を何回か歴史地理ゼミで中藤さんから報告を受け、論議した思い出がある。ゼミの場での古田先生の中藤さんへの“期待”ゆえのある意味“辛辣”な批評と、これに負けまいと粘り腰で、時には涙を浮かべながら食い下がる中藤さんの姿はわれわれ後輩にとって大きな刺激になった。今この論文を前にすると、何よりも中藤先輩と古田先生の歴史地理学研究へのほとばしるような熱意が伝わってくる。

本来ならば本「古田悦造先生ご退職記念特集」には中藤淳さんの最新の歴史地理研究の論文が掲載されるべきものであった。無念である。わが先輩を悼みつつ、本稿の末尾に一筆したためる次第である。

注

- 1) 東京大空襲・戦災資料センターは、「東京大空襲」の惨状を次世代に語り継ぐために設立された民営の資料館である。2002年3月9日開館。江東区北砂1-5-4(03-5857-5631)、開館は水曜日～日曜日の12時～午後4時。協力費として一般300円、中・高校生200円、小学生以下は無料である。<http://www.tokyo-sensai.net/> (2015年8月13日 閲覧)
- 2) <http://www.zkk.ne.jp/~karasawa/u-bird.html> (2015年8月13日 閲覧)

参考文献

唐沢孝一(2001):『よみがえった黒こげのイチ

- ヨウ』大日本図書, 157p.
- 早乙女勝元監修／東京大空襲・戦災資料センター編(2015)：『決定版 東京空襲写真集—アメリカ軍の無差別爆撃による被害記録—』勉強出版, 521p.
- 島方洗一(2015)：正確な東京空襲被災地図整備のための提言. 地図中心(510), pp. 8-11.
- 東京空襲を記録する会編(1982)：『東京大空襲の記録』三省堂, 207p.
- 長崎 誠三(1998)：『戦災の跡をたずねて—東京を歩く』アグネ技術センター, 158p.

**Practice record of “Great Tokyo Air Raid (firebombing of Tokyo, Mar. 10, 1945)”
by the high school geography education**

KAWASUMI Masayuki*

Keywords: Great Tokyo Air Raid, geography education, classroom practice

* Tokyo Metropolitan Minamikatsuskika High School